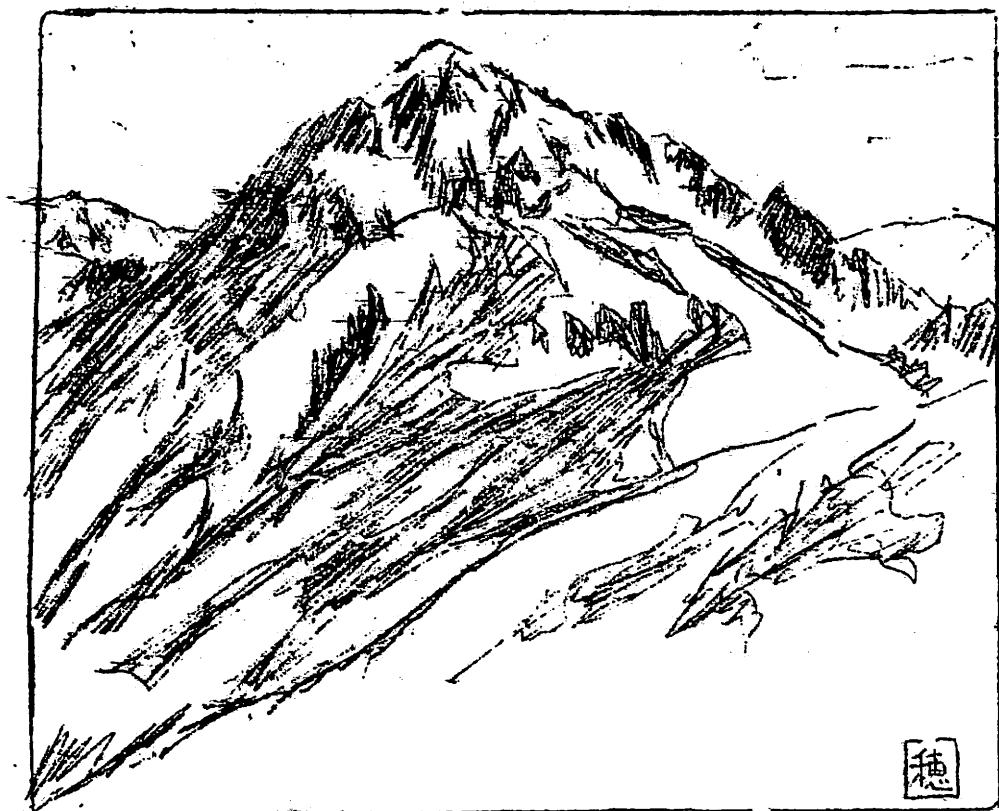


宿合山夏山
報告書



信州大学山岳会

S.A.C

ーモくじー

表紙 -----
もくじ
入山
246(雪割トハニ)

1
2
3
5



日月 22 日 時々

(初日、上山の日)

[先発隊の記録]

Member L 岩村, 保科, 丸山, 中根, 飯島

松本	773-	扇沢	107-	黒四ダム	-----	内蔵助平
7:00		8:20		8:45	9:05	12:25

。水平歩道は比較的整備されており歩きやすかったが、内蔵助平への道は、ナカナカの悪路であった。木の根や岩で歩きづらく、ヤブカビとく、木がザックにひっかかること多く、40kgの荷がなおさら重く感じられた。強い雨とヤブこぎでビショビショになり、やっとの思いで天場に着く。内蔵助平は狭い天場であり、テントを分散して張る暇がなかった。(中根)

[後発隊]

Member L 関, 藤井, 茂呂, 田辺, 沢田, 細川

黒四ダム発	-----	内蔵助平
9:05		12:45

。今日の行程はホイホイだと聞いよったのに、雨に打たれて不快だ。明日の熊の岩までもシンドそう、たけど明日で重い荷とはお別れできるのでガンバルゾ!! (細川)

8月23日

時々◎

(2組で)

[先発隊]

Member 上川原, 丸山, 岩村, 保科, 飯島, 中根

内蔵別平	ハシゴ谷乗越	真砂沢山荘	熊ノ岩
5:50	7:45	9:15	12:30

。ハシゴ谷を快適に登った。昨日来の雨で、沢は増水していた。ハシゴ谷乗越の下からは真砂沢や八峰が見えた。通年よりの上流で剣沢をトラバースして行った。長沢即谷の雪渓は途中大きく切れているが、意外にスムーズに行けた。しかし雨、風はとても強かった(飯島)

[後発隊]

Member 上山本, 田辺, 肉, 茂呂, 藤井, 細川, 沢田

下S	ハシゴ谷乗越	真砂沢ロッジ	熊ノ岩
6:10	7:55	9:00	1:00

。真砂沢までは登り2ピッチ、下り1ピッチ、雨と沢の水で歩きづらかったが、高度差は少ない。真砂沢からの雪渓歩きは、夏の硬い雪と重い荷が相いまって苦しい登りだった。途中流水のある岩の上を滑らずあるくのに苦労した。それにしては雪渓、雨、風、-----寒い存~~~~ (澤田)

8月24日(日) 晴の曇

1. 山本、藤井、保科、園、茂呂、丸山、沢田、中根
飯島、細川

B・C 発 — 雪割 [長次郎谷を侵して] — 剣岳本峰
(5:10) (5:20 ~ 9:15) (10:05)

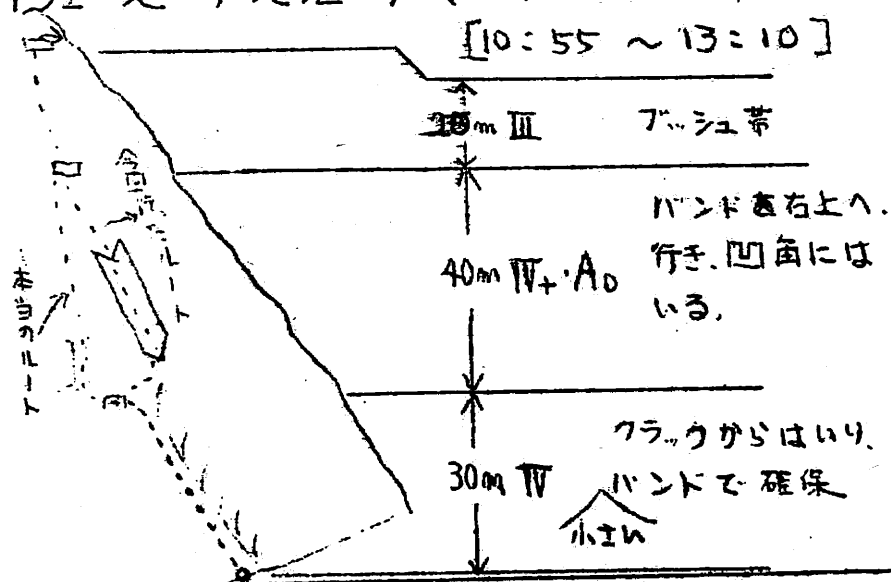
B・C 着 — ハッ峰文峰の登攀 — フィックス工作通過
(10:30)



★ Aフェース・魚高ルート (藤井、丸山、飯島)
[10:45 ~ 13:15]

最初の凹角の中の水が流れていたため、少し登りにくかったが、全体的に岩が硬く、快適だった。
下降で一ヶ所ア、フサイレン(15m)する。(飯島)

★ Aフェース・中大ルート (山本、細川、澤田)
[10:55 ~ 13:10]



1ピッチ目を区切った小さなバンドを右上へトラバースして凹角にはいったのは正式なルートではなく、本当は、バンドを左へトラバースし、浅いチムニーにはいるのである。凹角内は、レイバックで登るとよいが、ピンがあまり多くない。とてもしんどいルートである。(細川)

★ 剣稜会ルート・Cフェース (関・田辺)

[10:45 ~ 12:00]

全体的に、大きなホールドがあり、快適だった。ルート下部は、ピンが少ないが、上部はかなりピンがある。ナイフエッジ(上部)が核心部で、IV+ほどと思われる。(田辺)

★ Cフェース・RCCルート (茂呂・保村・中根)

岩が硬く、浮石が少なく、フリクションもよくきく、好ルートである。2ピッチ目の凹角状スラックで1ヶ所、かぶり気味の所があり核心部だが、ホールドはしっかりしている。このピッチはIV級ぐらい。(中根)

★ Dフェース・富士ルート (川原・岩村)

[11:00 ~ 1:00]

1ピッチ... 3段のフェースを登り、凹角を左にトラバースし、ハンクを巻く。凹角トラバースがしんどい。

2ピッチ... IV級のホールドの細がいフェース。バンドへのトラバースが核心部でA0。ピンが少ない。

3ピッチ... ホロホロの凹角。ピンが少ない。

4ピッチ... 40m行かず、下のテラスで切ったほうがよい。

5ピッチ... ホイホイで頂上

(岩村)

10月25日(月) 晴

★ Aフェイス・中大ルート (川原・中根)

[5:20~6:30]

1ピッチ... クラックを左よし、バンドをトラバースして、チムニーに入る。ホレッジでビレー。

2ピッチ... 浅いチムニー状からカンテ状の登攀

3ピッチ... 凹角より、ハイマツまじりのフェイス・リッジを登り、頂へ。

(中根)

★ Cフェイス・剣陵会 (丸山・保科・細川)

[5:10~8:40]

1ピッチ... フラック状の所より取付き、左上する。(40m・II) 最後少し、右上し、ビレー。

2ピッチ... トラバースし、凹角にはいる。後は(40m・III+) 快適なスラフ。

3ピッチ... 硬く、快適なフェイスを登る。(40m・III+)

4ピッチ... 快適なスラフからナイフエッジのトラバース。ナイフエッジは高度感があり、快適。

5ピッチ... ハイマツまじりの簡単な登攀(30m・II)

(細川)

★ Cフェイス・RCCルート (下田・岩村・飯島)

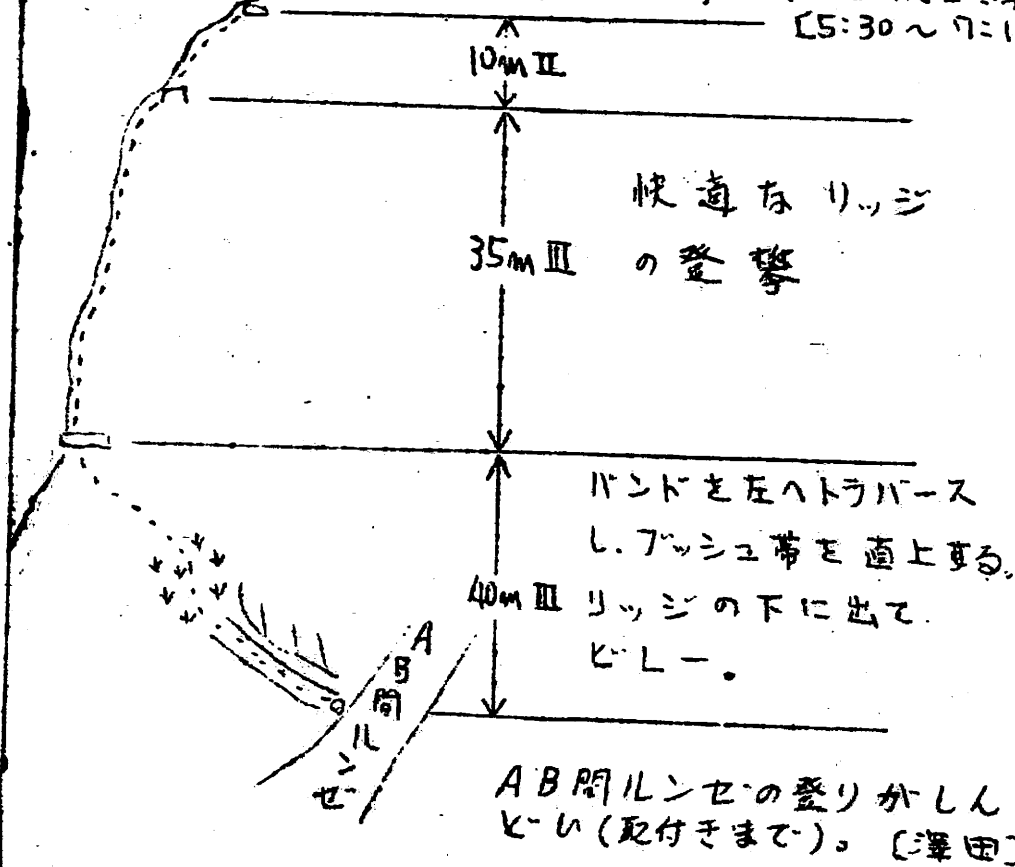
[5:15~7:30]

取付くのに第1バンドあたりより登り出して、

取付いた。岩が硬く、快適なルートだった。

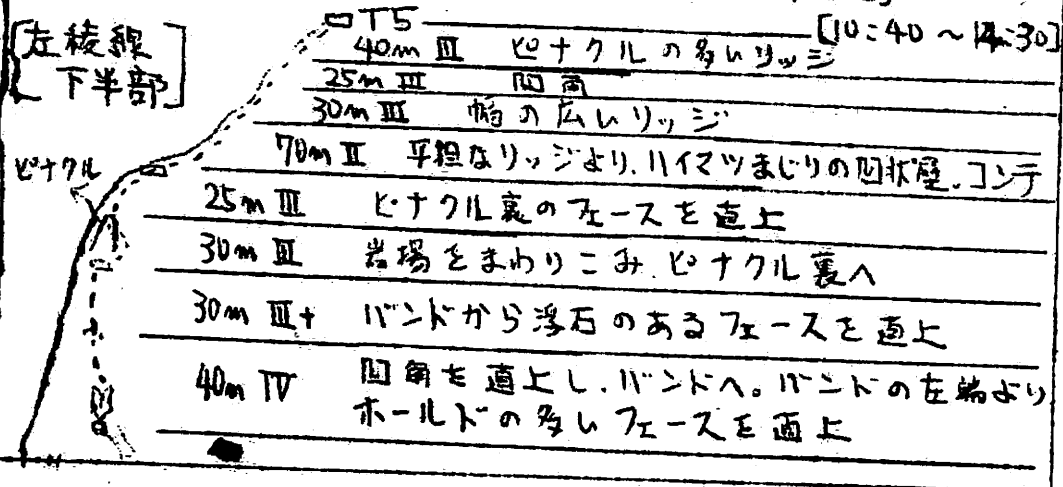
(飯島)

★ B フェース・京大ルート (田辺・茂呂・澤田) [5:30 ~ 7:15]

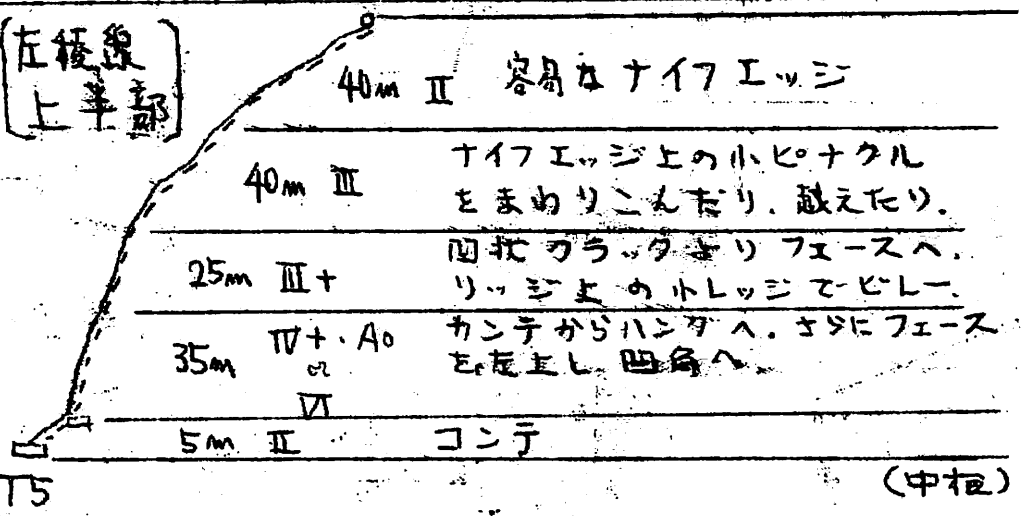


★ 今二ネ左稜線 (川原・中根)

左稜線
下半部



左稜線
上半部



40m II 容易なナイフエッジ

40m III ナイフエッジ上の小ピナクルをまわりこんだり、越えたり。

25m III+ 凹状クラックよりフェースへ。リッジ上のホレッジでビレー

35m IV+ A0 凹 凹角からハンダへ。オビにフェースを直し凹角へ

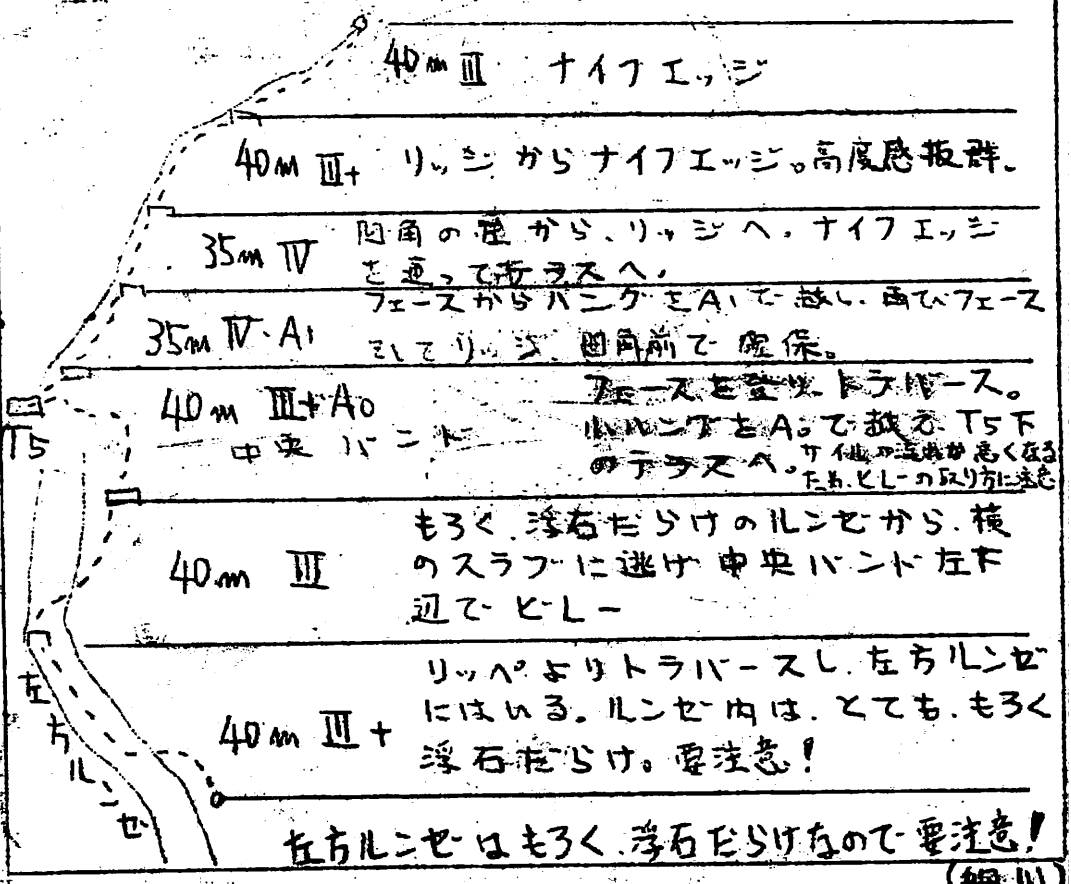
5m II コンテ

T5

(中根)

★左方ルンセ～左稜線上部

(保科・丸山・細川) [10:50～13:15]



40m III ナイフエッジ

40m III+ リッジからナイフエッジ。高度感抜群。

35m IV 凹角の壁からリッジへ。ナイフエッジを通って右アスへ。

35m IV A1 フェースからハンダをA1で越え。再びフェースを越えリッジ。凹角前で確保。

40m III+ A0 フェースを登ってトラバース。小ルンセをA0で越えT5下のテラスへ。サ他の岩場が急くなる。下は、ヒールの反りがきつ

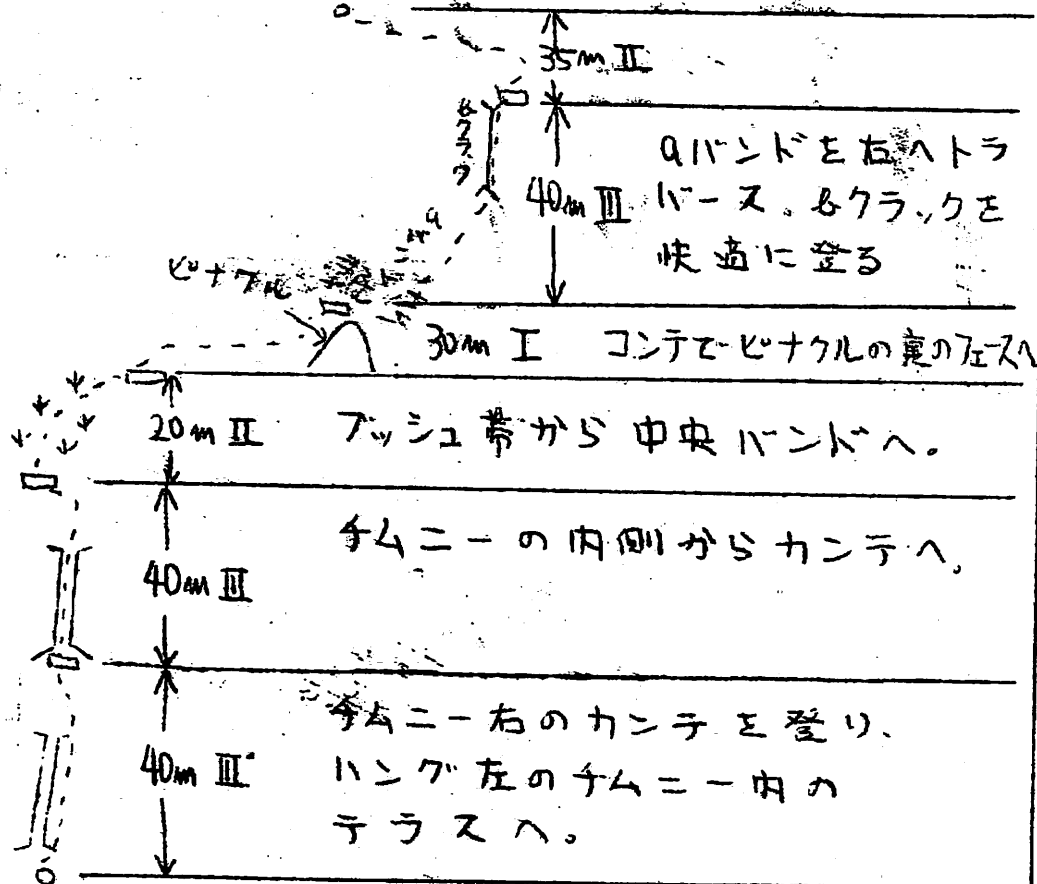
40m III もろく、浮石だらけのルンセから、横のスラフに逃げ中央バント左下辺でビレー

40m III+ リッパよりトラバースし、左方ルンセにはいる。ルンセ内は、とても、もろく浮石だらけ。要注意!

左方ルンセはもろく、浮石だらけなので要注意!

(細川)

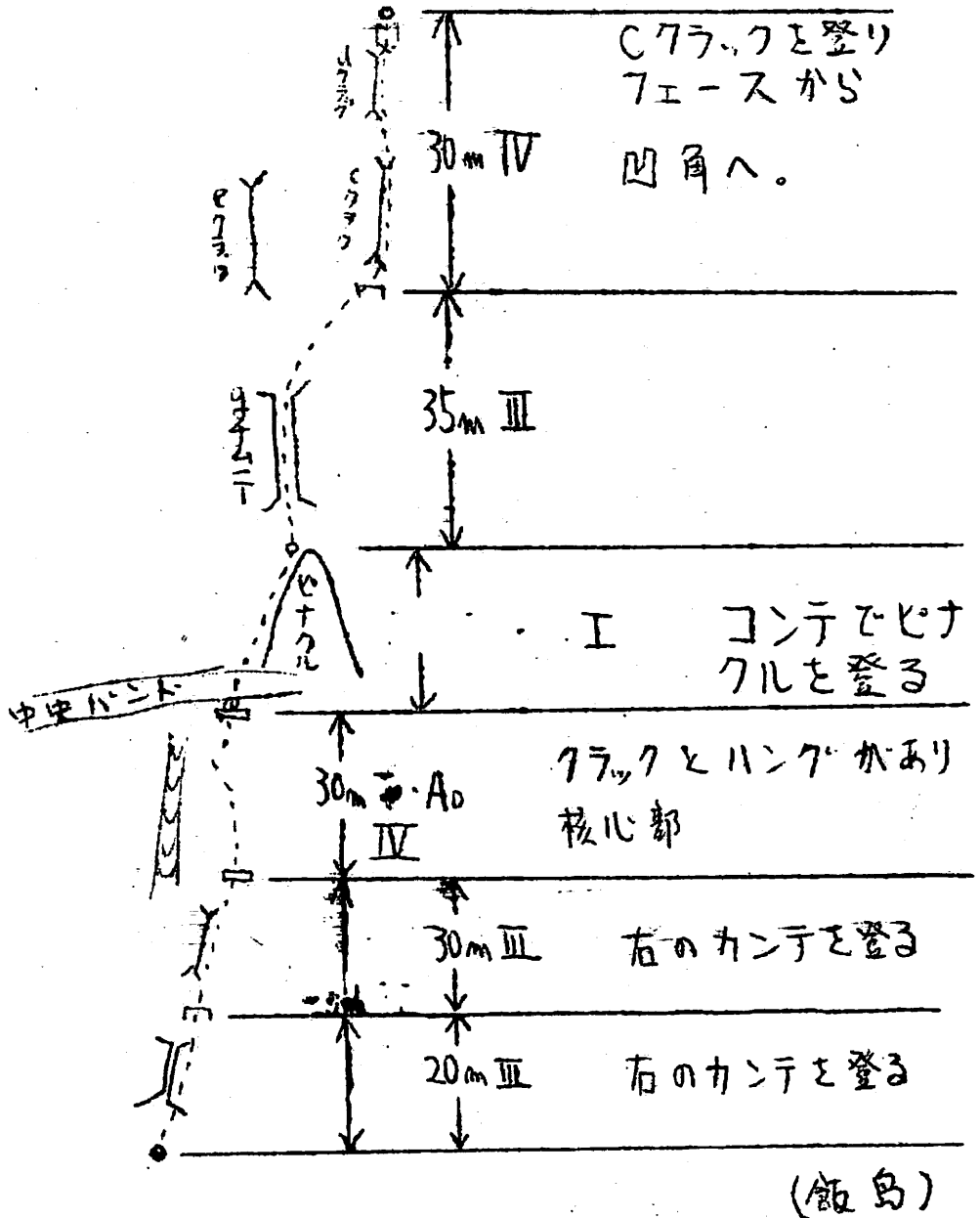
★チムネ 中央チムニー：aバンド&クラック
 (田辺 茂呂 澤田) [10:40 ~ 14:20]



3ピッチ目でサイルによる落石で 20cm x 15cm x 10cm 程の石が田辺の頭に直撃。ヘルメットが割れ、軽い脳しんとうを越す。
 (澤田)

(来日また 8月25日(月)の行動が続き
 ますから、あきすによんでね、おにいたん。)

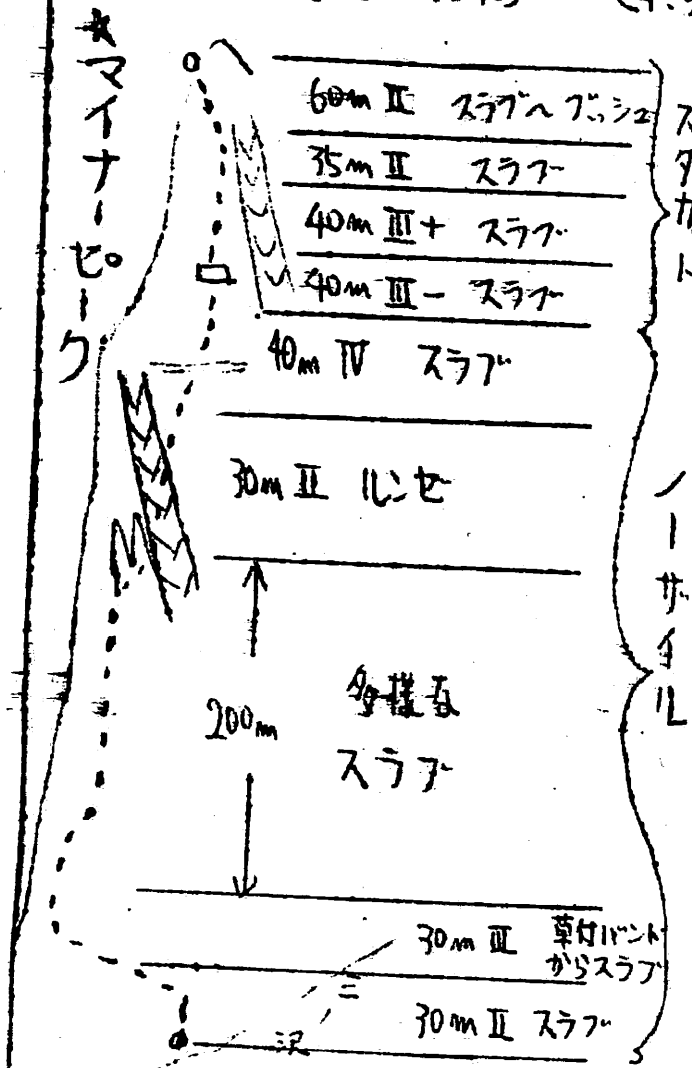
★子ンネ・北条・新村ルートg44ニ一C.dクラック
 (下田・岩村・飯島) [10:50 ~ 14:30]



★ハッ峰特別機動隊(マイナーピーク東面スラフへ Dフェース 又留米大)
 (山本・藤井・関)

B・C発 — 真砂 — マイナーピーク — I峰 —
 (5:00) (6:00) (7:20 ~ 9:40) (11:00)

B・C — Dフェース — B・C着
 (12:30) (1:20 ~ 3:40) (4:30)



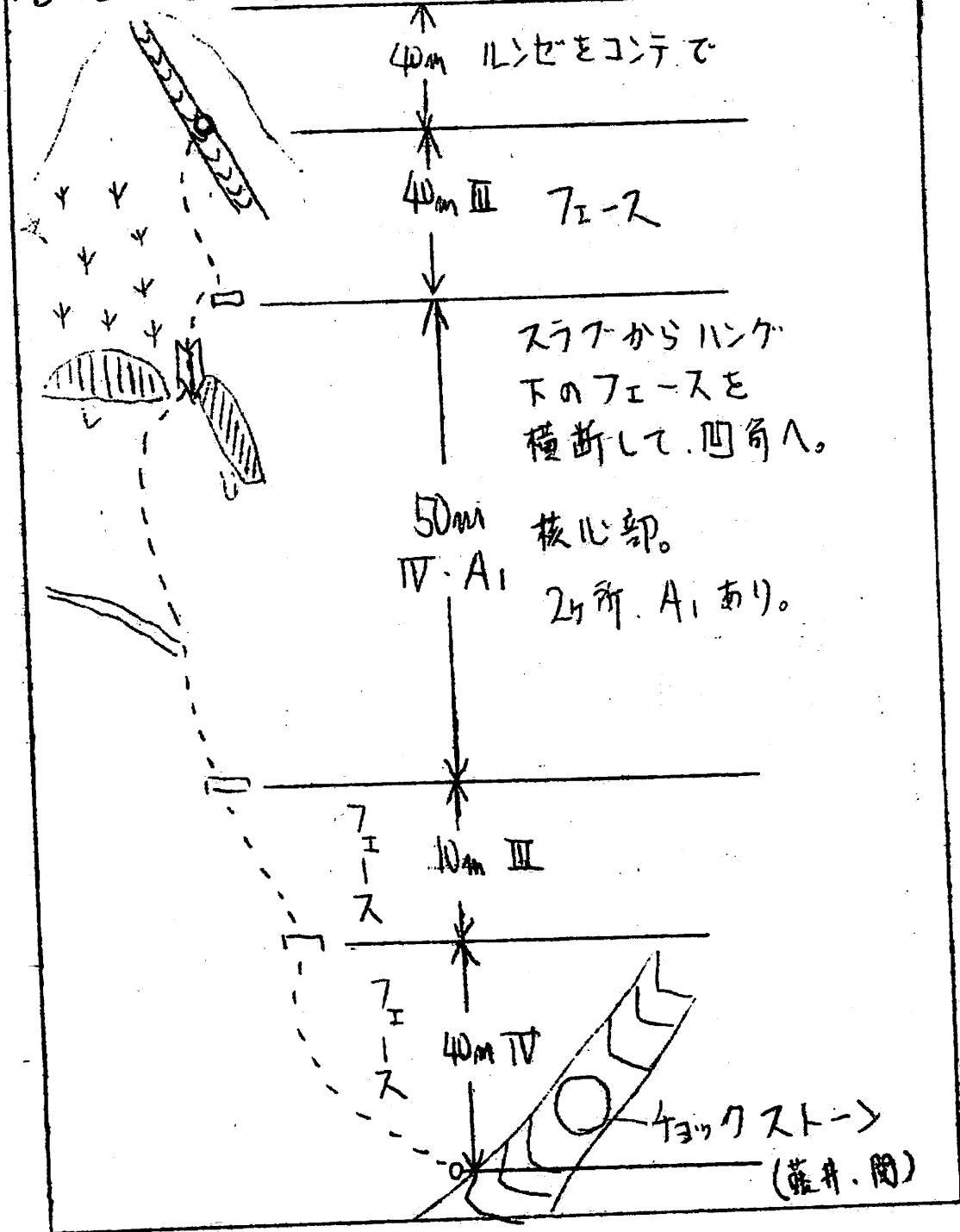
・IV級のピッチを除けば、ほとんど問題は無いが、ピトンがない。

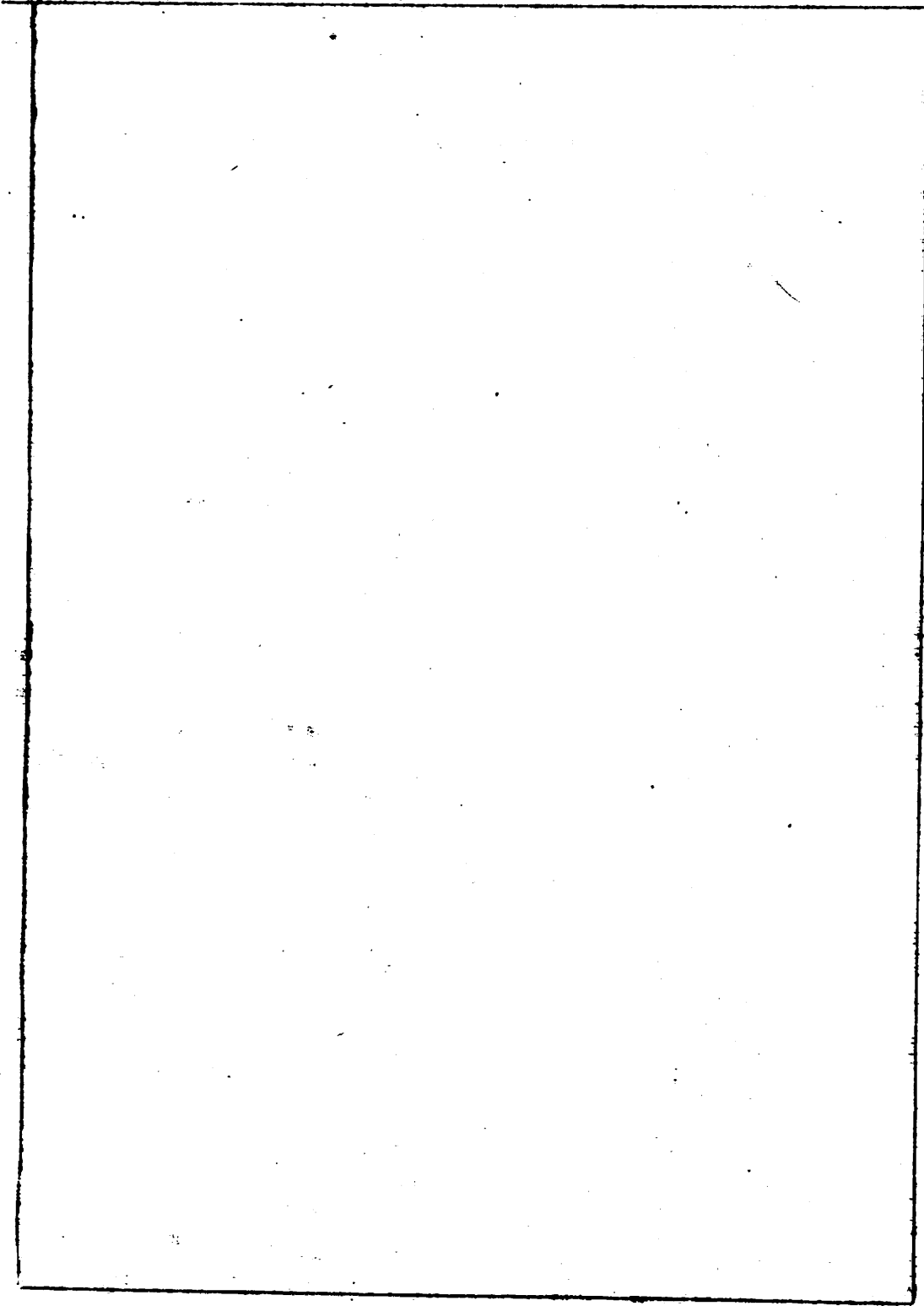
・マイナーピークからI峰へは明らかなる踏跡あり。

(山本 藤井 関)

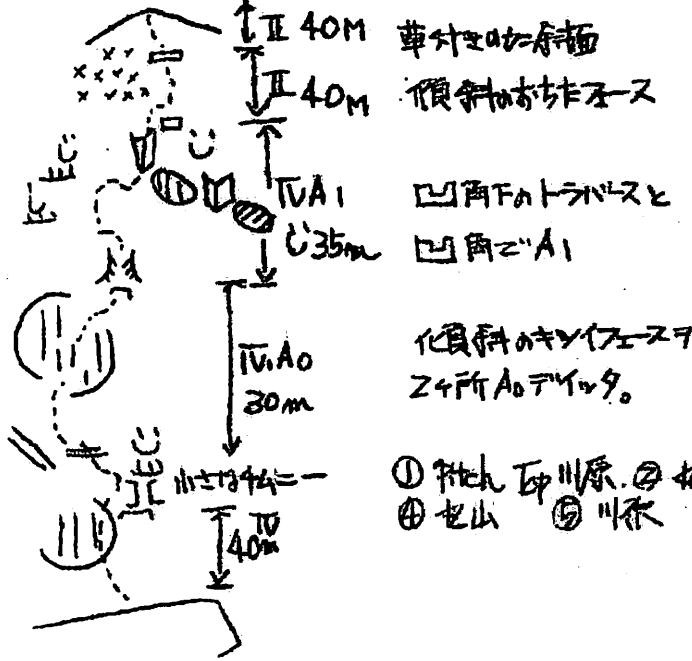
[7:20 ~ 9:40]

ADフェイス. 久留米大ルート (山本. 藤井. 関) [1:20~3:40]





8/27 Maibet L.川原.丸山
 ハッ峰天峰Dコース 取付9:30 終3 12:15
 久留米大ルート



- ① pitch 川原 ② 丸山 ③ 川原
- ④ 丸山 ⑤ 川原

8/27 ●● ハッ峰天峰Eコース M. L山本 岩村
 取付 13:00 終3 15:00



- 1 pitch 取付からハッ峰まで50mの距離を
 登らず左のコースを辿る
- 2 pitch 草が大きい岩が連続して登る
 3 pitch 途中一ヶ所ヤラシがあと付
 人にもなると怖い
- 4 pitch 11ヶ所を左から登る
 ピーナツ、フックをZ+所使用
 大きな岩が連続している。要注意。
 抜けを5イテラスアリ。
- 5 pitch テラスを左上、ハイマツ帯に入り
 頂上へ

見本目より岩がしつかりて
 が、C.Dコースを考える必要アリ
 ハッ峰より。ピナツは無い。

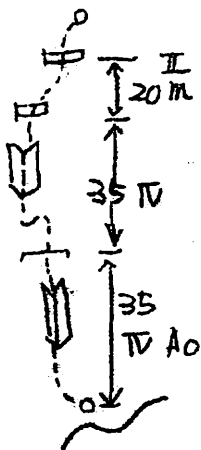
8/27 ◎ / ● / ◎ ハツ山天山峰Cフェース 剣陵会ルート
 M.L 茂呂, 中根, 澤田 取付 12:50 終了 14:30
 ルート → 日本の岩場参照

天候がよければ [4], [5] ピック4目付最高F気分が良かった
 のへ。岩が雨でぬれていて滑るもの多かった。

8/27 ハツ山天山峰Dフェース 高山大ルート
 M.L 下田, 田辺 取付 9:30 終了 11:40
 ルート → 日本の岩場参照

この合宿で初めて登った4本のルートが春に通過した
 2ピックアップ目付さすがに二つは良かった。あとは濡れた岩でも
 登りやすかった。

8/27 ◎ 時々 ● ハツ山天山峰Aフェース 中大道上ルート
 400円シュリヶケ 回収隊 L. 加藤, 関 (茂呂) → 雨の為退却
 取付 11:00 終了 12:30



左イソ凹角へ
 ヤマトラバースにて
 凹角へ入るむずかしい
 シュリヶケ回収

本当の中大ルートは
 もっと右の方にあるた
 谷の雪の下で
 ティホウニを発見
 持ち等かたりの均整あり。

8/27 ハツ山天山峰Bフェース 京大ルート
 L. 加藤, 保料, 中根 取付 8:00 終了 9:20
 ルート → 日本の岩場参照
 T 保料, Z 中根 L 加藤

上部はゆ々もろろがすっきり作好ルートであった。
 リッジは高層に難かしく高層感も満点である。
 天候がよければ本当F気持ちがよい。

8/27 ハッ山年元峰Bフェース 大ルート ②→③
L 柳原, 松山, 飯島 取付 13:30 終 14:50
ルート 日本の岩場参照

2pitch目から左にルートをとり4ピッチ目を登る
雨で岩が滑りやすくなっていた。

8/27 ③時々③ ハッ山年元峰Cフェース 剣橋尾ルート
L 藤井, 岩村, 飯島 取付 9:25 終 11:35
ルート 日本の岩場参照

全体が快適なルートであった。帰りに五ヶ所のコルに行くときに
道をまちがえて時間がかたくなかった。

8/27 ハッ山年元峰Dフェース 富山大ルート
L 藤井, 保科 取付 13:10 終 14:40
ルート 日本の岩場参照

正規の2pitch目及び5,6pitch目をつなげ4pitch目を登る。
A0ピッチで使うかわからなかったのでもフリーで登る。
2pitch目はもろかったが 全体としてなかなかの好ルート
だと感じた。あまり雨に降られずラッキー
2pitch目の右のルートは2クマであった。

8/27 ③/③ ハッ山年元峰Aフェース 魚高ルート
L 下田, 田中, 細川 取付 12:55 終 14:30
ルート 日本の岩場参照

Cフェースの皿部を比バールでむすかしたような
気分がした。とても楽しかった。

8/27 ハッ山年元峰Cフェース RCCルート
L 関, 細川 取付 8:45 終 9:40
ルート 日本の岩場参照

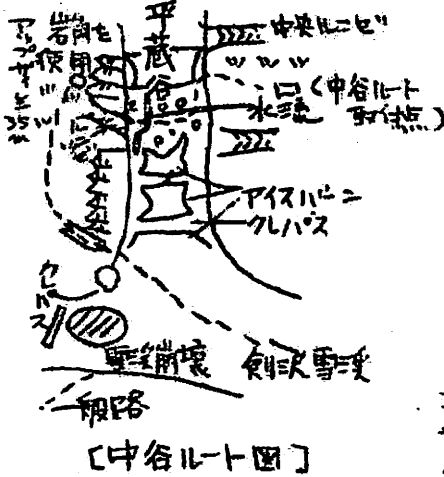
雨の後で木が濡れていた登りやすかった。

8/27 六峰Aコース 魚津高ルート ①

L山本, 茂呂, 三澤田 取付 8:30 → 終 3 9:50
 ルート 日本 の 岩 場 参 照

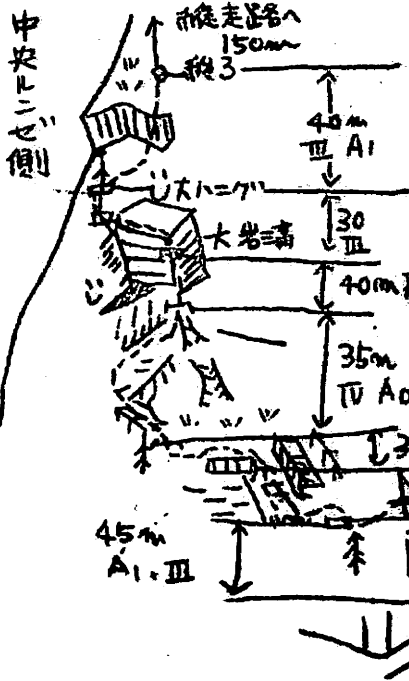
花崗岩は非常にマサツがきいて登り易かった。
 時々、大きな滑石があった。

8/28 ①/② 源治郎尾根 | 峰平蔵谷傾斜下部 中谷ルート
 L川原, 岩村, 保科 BC. 5:10 ~ 取付 8:30 ~ 終 3 15:50, BC. 18:10
 [平蔵谷下部ルート図]



平蔵谷下部はクレパス、ソールト、スリッパ
 が飛越しており雪渓はアイスハルンと併せて
 V行不可能なため 左岸を高巻く、E部の
 凹角意味も20mほど登りながら草付の
 も30mほど10mほど登る。ニよリ
 ハイマツのヤブコキをしながら高巻を
 序々ト上げフトラハラスし中谷ルート
 対岸の水流のあるルニセの右壁を岩角
 を使ってアツコカイル=35mする。ニよリ
 かし草付を登り取付点へ。

平蔵谷は旧中野溪の崩壊の音が鳴り
 響く定ト不意味であつた ヤブコキはなが
 ながし人といひ。



スラブをA1とフリーで直上し草付のリップ
 へ出て登攀を終る
 44-を登る出口付近は木立のニよニよから
 容易なリップ
 大岩嘴の44-はA1とフリーで
 登るニよるがタタの2ニよニよ
 44-を登るとスラブがありA0の面で抜け
 ルニセにリップまでつめる
 傾斜の弱いスラブをA0を2.3回使
 左トスラブに2フェースを直上
 傾斜の弱いスラブをA0を2.3回使
 直上
 凹角の右壁をA1に直上凹角
 をトラハラスし30mほど左に上る

8/28 三原治郎尾根 山平蔵谷廻り壁下部、中谷ルート のつぎ

感想

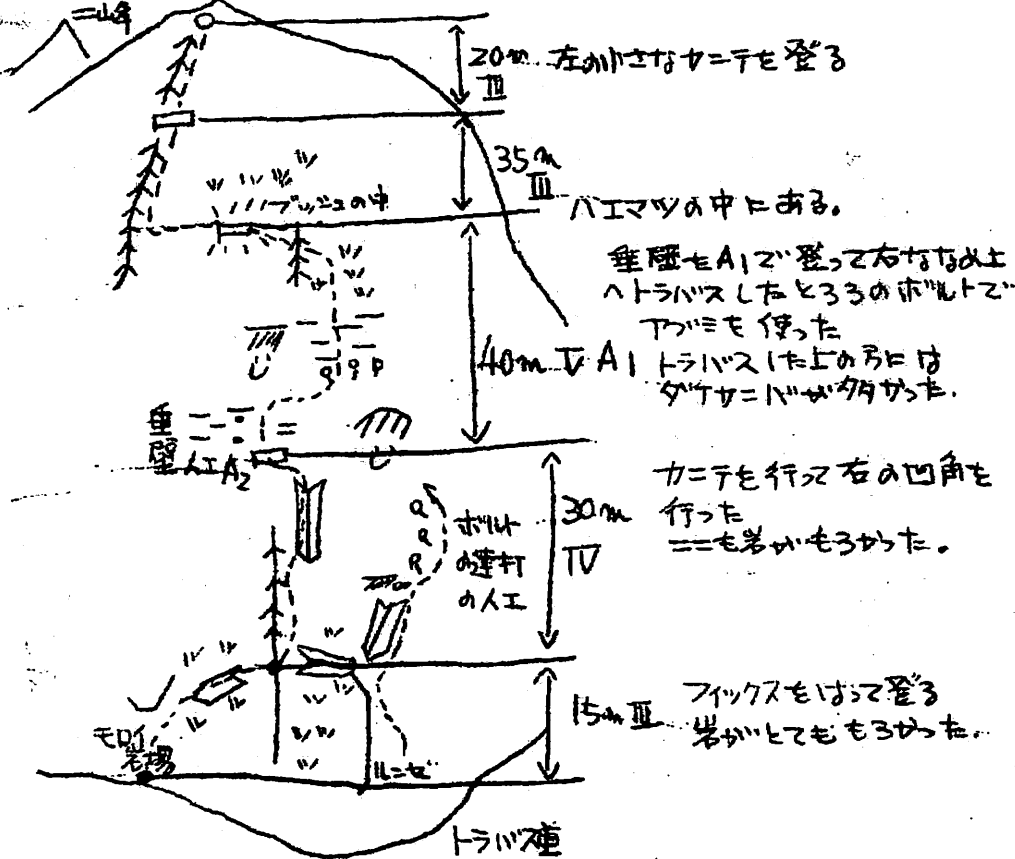
取付手での平蔵谷下部が奥にいやらしかった。大岩溝を除けば
 ルト全体はスラブで形成されてあり好ルートと思う(保料)

取付と大岩溝を除けば、正味ルート廻りいやしい以上の事は51まで
 特々味あわせてくれた (川原)

3人パーティのラストは一人取り残された様子の林の中。(岩村)

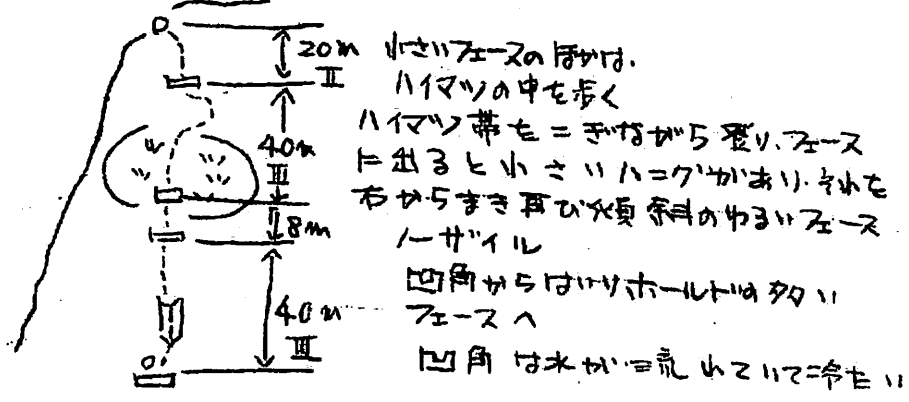
8/28 (木) ① 三原治郎尾根=山平蔵側D face (D faceはもう5111)

L 山本、田辺、飯島、取付 8:50、終了 11:00



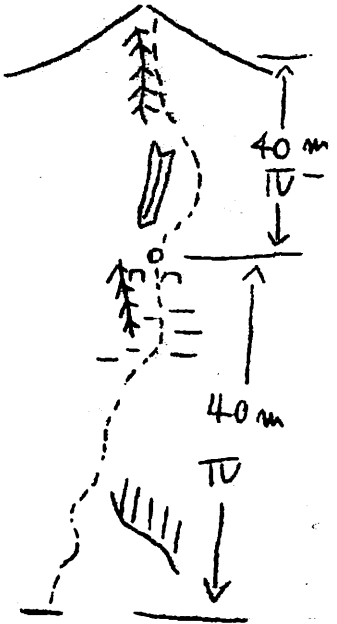
時間やとも長くがかった、おりにト岩が
 もろかったが、案外おもいろいルートであった。

8/28 源次郎尾根II山平蔵 右側 AB 左一ス
 L 如藤 関. 細川 取付 8:40. 終了 9:45.



予人となんく陰惨なふんいきだった。

8/28 ①/② 源次郎尾根II山平蔵 右側左一ス Bカ=テルト.
 L 藤井. 茂呂. 中根 取付 8:45. 終了 10:00



シツより右に出で左一ス直上草付も左上し
 シツにも登って終了

草付帯の1mほど状のテラスより取付くめれた
 悪いスラフを行くと頭上をもろいハイマツ
 帯におさえられる。ニキを左からまき、もろい
 草付きを右にトラバース。明るいかニテ木の所を
 直上。ニキは代原斜もあり、ホルトは大きい
 外傾はありはこう悪い。小さいシツでビレ。

残置ハートがなくしかもハニハニスクライ
 ミニクとテラスはこう難しかったがサエて
 ニハカ面白かった。

8/28 ① BC 5:00 ~ 1山峰頂上 8:00 ~ 12:00. コル
 剣頂上 12:30 ~ BC 13:30

8/28 ① 源治郎尾根正山峰平蔵谷側Cコース
 L. 下田, 木山, 澤田 取付 8:40 ~ 終了 10:20
 ルート日本の岩場参照

天候が良く、登っていて気分は最高だった。ガラガラの
 花崗岩だったため Ao の所がフリーで行けた。

8/29 (金) ① → ②
 L 川原, 下田, 岩村, 関, 保村, 木山, 田辺, 糸田, 澤田, 飯島, 中根

BC 5:00 ~ 平蔵谷出合 5:50 ~ 剣頂 6:50
 別山と真砂岳のコレ雨でひどくなりひきかえす 7:45.
 8:15 剣頂 ~ 10:20 B, C.

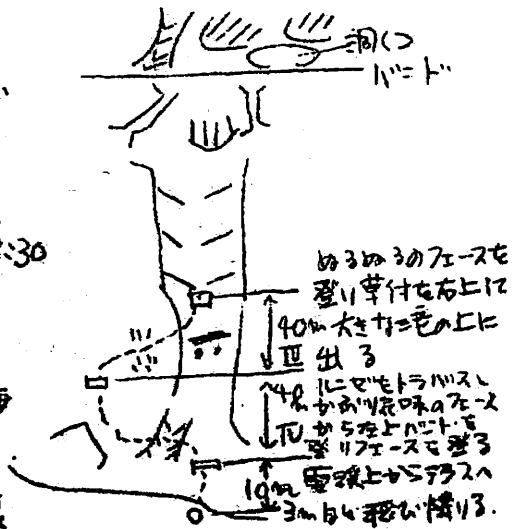
雨が降るとしても雪かかったとらせ降るならもっと早く降って
 くればよかったのに。(神様のいれる) 短かったの意外
 良かった。

8/29 ② → ③ 剣尾根中央壁左 ~ 4=ネ北条新村松付
 L 加藤 藤井.
 B, C 5:00 取付 7:00 終了? 取付 14:15 終了?
 ルート日本の岩場参照

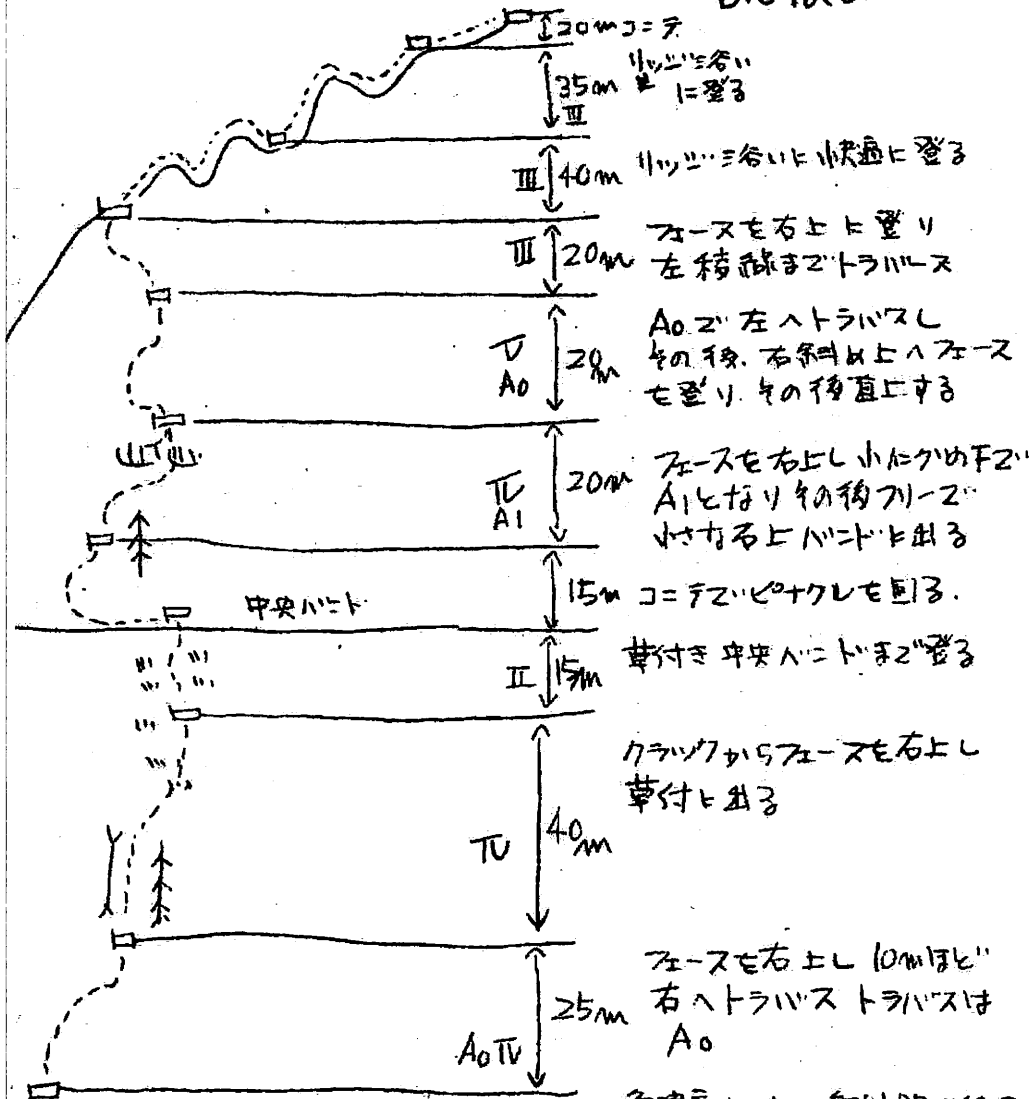
8/29 剣尾根主稜 (R7 からトム) and 4=ネ魚津高から
 新豊ルート L 山本 茂昌.

R7 とまちがえて R8 を登ってしまった。
 上部が氷と行かぬ雨も降ってきたので
 pitch 目で断念して、ア、アサキレで
 雪渓上へ降りた。又、雪渓の氷態が悪く
 雪渓上から R8 取付へ降りるのにアサキレを
 使った。B, C 5:05 取付 6:10 終了 8:30
 ア、アサキレに終了 10:00

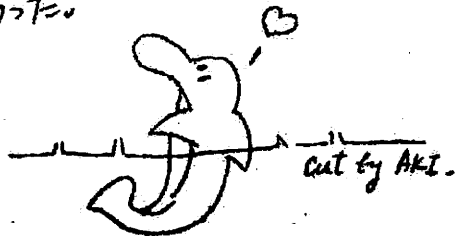
4=ネを登る前に小窓尾根も登った。
 何も見えなかった。しかも日け日本海
 が見えたのでアサキレの塩煙さか食べた
 かった。



4=示、魚津高から筑豊ルート 取付口:00, 終了 15:20
B,C 16:00



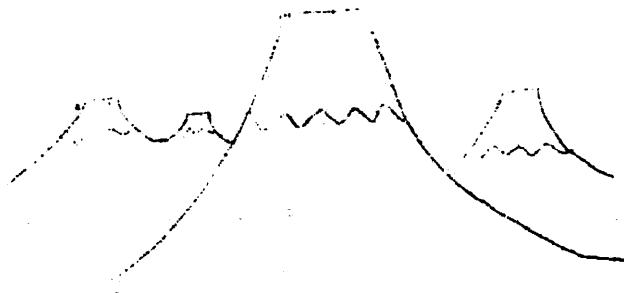
○魚津高ルートを短時間で終る
良いルートである。
○筑豊ルートは、とてかくしんたいルートである。A1は問題
はないが、フルは極地である。ルートマニテクと微妙なバランス
ood 腹な膨れが必要なるルテであった。



8月30日(土) ● 一昨

全員下山

6:20	B.C 発
7:40	真砂沢 ロッジで一本
8:40	一本
9:20	ハシゴ谷乗越を通過
9:40	一本
10:30	内蔵, 助平で一本
11:45	出会
1:10	黒四ダム



登山が怖い!

係の反省

・装備

11mmφザイルに短かいものが2本あり、不便であった。また、11mmφザイルは必要最低より1~2本余分に持って行くべきである。他は良かったと思う (藤井)

・ESSEN

全体的に少し貧弱なESSENであった。もっとぜいたくにした方が良かった。サマ天のESSENを活用するとかなり安上がりになるので来年ももっと活用して欲しい。米の量を1人200gで計算し、それを食器何杯であるかというふうに換算したけれども、この為には誤差が生じるので新しいシステムを開発するべきだ。米を日ごとに分けてパッキングして成功だったけれど、他のミスが多すぎた。(佐野)

・医療

医療カンを便利にする合宿を終えられて良かった。医療カンは、伊ナから2つと松本の部室のをもって行った。量・質ともに充分であり、3つに分かれていますと便利であった。(田辺)

・会計

収入	143800	-----	}	ESSEN	50845
支出	141545	(返却分を含む)		装備	6380
残	2255			交通	70760
				その他	13600

支出内容	ESSEN	33.90%
	装備	4.23%
	交通	55.77%
	その他	6.08%

トリーバは往復券を買えば安い (丸山)

個人の反省

中根 : 生活技術の悪さが反省すべき最大の点だ。特に朝の遅れは行動にまでひびくので反省したい。今日は天候のわりには多く登山に出れて楽しかった。左稜線はフリーで行けたのがうれしかった。

細井 : 3人で登った時のザイル操作がまだ未熟で、テラスにいる時間がたいへん長かった。それに、あいかわらず生活技術が悪かった。

関 : 今回の合宿は悪天にまかされ、内容の深い宿であったと思う。登山は希望ルートを2本登りたいその他にも3本登れたことは非常に満足した。欲を言えば、クニネに行きたかった。一年生は身体的・技術的によかったと思うが、生活技術はまだだと思われる。

前井 : 2年生の物に比べ、1年生が少なかったためか、2年生としての責任を大きく意識することができなかった。また、個人的には、初めて池の谷へ入れたことはうれしく思う。

丸山 : 私としては初めての真山合宿でありましたが、雨がけっこう降ったわりには行動できてよかったと思います。登山技術については指摘をされましたが、まだまだだと思えます。ザイル操作等を考えてみる必要があると思えます。

坂本 : ハマ峰、クニネ、池の谷、源じ郎など去年に比べて多くのルートを登ったので楽しかった。しかし、TOPで登る時は、まだまだ未熟な点が多かった。ゴレのとりよとか、ザイル操作などの他に、自分の力量の未熟さを痛感した。また、落石を4ヶ所落としたことと、その中に含まれるので、以後反省したい。

田中 : 落石は落とさずに済んだことはないが、「落」と早く知らせたほうがよい。また、岩登りでは、トップでのルートファインディングのむずがしさを十分味わった。ただ、雪渓のヤキヤキの雪での登降で、自分の技術に不安を感じられた。

保科：合宿前の健康管理が不十分であったため、合宿中
体調が悪く苦しんだ。また、今合宿中は相当な
本数を登ったが、1年ほど登ることは大半だったので、
取付ルートファインディングのよい勉強ができた。
やはりトップで登ってこそ意味があると思った。

沢田：雪上技術がまだ不完全だった。
登り中の行軍力がぎこちなかった。
雨の日が多かったが登りが多くなるのは良かった。
早く夏に慣れたい。